

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590400075		
法人名	社会福祉法人 徳栄会		
事業所名	グループホームさくら坂		
所在地	日南市大字楠原1797番地1		
自己評価作成日	令和元年12月21日	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

プライバシーの保護、人権の尊重、尊厳の保持を念頭におき、できるだけ制限を設けない支援を実施させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ法人の施設、デイサービスの事業所と隣接し、合同で総合訓練を行うなど協力関係の構築に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲げられているが、内容の把握及び理解している職員は、半数である。	職員会議で話し合い新しい理念を作り、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、イベントや行事における交流はさせていただいている。また、野菜や果物の差し入れや、買い物時等の交流もさせていただいている。	地域の祭りに参加したり、学生の実習を受け入れるなど、地域交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に見学等で来所していただいた方や、認知症サポーター養成講座等に協力する事で、認知症の人の理解や支援を促進し、地域貢献させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、多職種の人より、助言や指導をいただき可能な範囲でサービスに反映させていただいている。	運営推進会議で出た意見を話し合い、サービスに生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かある度に、市町村の担当者に連絡し、助言、指導、確認を行う事により、協力関係を築くよう取り組まさせていただいている。	市の職員が見学に来たり、市を訪問し担当者に指導や意見をもらうなど協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より、夜間の防犯対策以外での施錠する事は行わず、解放する事により、行動抑制をしないようにさせていただいている。また、身体拘束についても実施した経緯は現在のところない状況です。	外部研修に参加したり、必要に応じて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会に参加させていただき、受講者に研修内容を振り返り、施設内研修を実施する事により、全職員で確認を行う事で防止に努めさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業及び成年後見人制度について特に学ぶ機会はないが、一人の利用者様が成年後見制度を利用されているため、成年後見制度について少しの知識は得られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文面を使用しての説明を実施し、疑問点の解消の為、意見を聞き確認を行っていただく事で理解・納得を図らせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時や連絡時に、利用者様及び家族より意見、要望を聞くように出来る範囲内での対応を行わせていただいている。	家族には面会時に意見など伺い、出た意見は職員会議で話し合い、対応策を検討し、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的会議及びミーティングを開催する事により、職員の意見を聞き、できる範囲で反映させていただいている。	月1回の話し合いの中で、職員は管理者に意見等を出し、また代表者は管理者から重要な意見等を聞き運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家族構成や勤務状況から、ワークライフバランスが出来るだけ、取れるよう勤務表や就労時間帯を考慮させていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講については、職員の希望により、研修を選択していただいている。研修参加後は、内部研修を実施する事により、周知できるようにさせていただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所及び地域内の事業所からの見学及び訪問に制限を設けないようにさせていただいている。他事業所や同職種の事業所との意見交換や地域情勢の情報を交換したり、交流を行わせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様に対して、本人様の不安を軽減し精神状態を安定させるため、声掛け、目配り、気配りを重点的に実施させていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用者様の家族に対して、意向の確認、要望の確認、家族の可能な対応について確認を行い安心して生活できるよう、考慮させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の心身機能の状態、病状、家族の意向を考慮し、居宅療養管理指導、福祉用具貸与等も検討させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者様が出来るであろうところに、共に行っていただけるような声掛け、コミュニケーションを行う事により、職員との関係を構築させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が家族と切り離されない距離を維持できるようにさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限や面会時間の制限を設けない事により、何時でも交流を行っていただき、馴染みの人との関係が維持できるようにさせていただいております。	墓参りや帰省、馴染みのお店での買い物など職員が支援し、家族の支援で理・美容院に行くなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活において、利用者様同士の関係性を考慮しながら、時には間に入り、時には静観し、利用者様同士の関係性が壊れないようにさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて、現在の本人様の状況・状態と家族の状況を確認する事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれ利用者様のスタイル、リズムに目を向け、本人様とコミュニケーションの中で意向の把握に努めさせていただいております。	利用者の希望や意向を直接確認し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の歴史やスタイルを担当しているケアマネジャーより情報収集し、サービス利用経過等の把握に努めさせていただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス利用までの、暮らしについて家族及びケアマネジャーより情報収集する事と、実際のサービス内での状態を確認する事で、現状の把握に努めさせていただいております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ストレングスに目を向けた介護計画ではなく、心身の状態維持に目を向けた計画になっている。	ケア会議では、職員からサービス内容について意見を聞き、家族には面会時に意見等聞いて計画に反映している。モニタリングは毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の関わりについて記録しており、記録した事を職員間での情報共有に生かし、支援に反映させていただいております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状態変化時、優先順位に基づき、本人様及び家族の状況も考慮し、その場面に応じた柔軟な対応をさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他事業所及び地域内の資源を把握し、連携を図る事で安全にその人らしく生活できるように支援させていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、在宅や従来のかかりつけ医を維持していただきながら、受診困難な利用者様や緊急時には施設で対応する事とさせていただいております。	受診情報は記録を共有し、家族が受診支援する際は看護ファイルを持参し、情報提供を行うなど受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をし、状態確認、状況報告、相談、意見の交換を実施させていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を、退院時には、情報供与を行わせていただいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対し地域医療の現状説明を実施させていただいております。重度化時の方針について、話し合いを実施させていただいております。また、状態変化時に家族とその時々々の状態に応じた方針について話し合いを実施させていただいております。	入所時に看取りについて同意書をもらい、重度化した場合は随時意思を確認し、同意書をもっている。医師、家族、職員の話合いの内容は、職員会議や申し送りノートで情報の共有を行い、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、救急救命講習に参加させていただいております。また、事故発生時には、マニュアルに沿っての連絡、報告を行うものとし、訪問看護の連携も実施させていただいているところです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会に災害発生時の協力体制と応援要請するものとし、定期的に避難訓練を実施している。	総合訓練は、地震、火災について年4回行い、また防火教育や基礎訓練、非常食の備蓄も行っている。総合訓練に地元消防団は参加しているが、住民の参加がない。	総合訓練には地元消防団だけではなく、地域住民の参加を呼びかけ、地域の協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの利用者様の性格やプライバシーに沿った声掛けを実施させていただいているが、時折、馴れ合いの声掛けが見られる事があります。	プライバシーを損ねるような言葉かけなどがあつた場合は、その場で注意したり、ケア会議や内部研修を行い、改善に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、各利用者の希望と意向を尊重させていただくようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのスタイル、リズムを考慮し、その時々状況に合わせた対応を心掛けさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に始まり、ネイル、着替えの洗濯等実施、理美容を実施させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のコミュニケーションにおいて、食べ物の嗜好を把握し、味付け、準備、片付け等を利用者様と共に実施させていただいております。	買い物に利用者様と行き、食材を選ぶ時に希望を聞きメニューを決めたり、おやつと一緒に作るなど食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事において、本人様の嗜好について把握し、食事の摂取量を維持、栄養補助食品の利用を検討する事もあります。一日の水分摂取量の把握をする事や、摂取、飲水状態を確認しながら、トロミ剤の使用を検討させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔清潔を実施させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の心身の状態に応じた排泄を考慮させていただいており、出来るだけ、トイレでの排泄の維持を考慮しながら、支援させていただいております。	排せつチェックは、センサーで管理してトイレ誘導を行い、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況による、水分摂取、医師との連携を図らせていただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望、職員の声掛けにて、毎日、入浴を提供出来る環境を整えさせていただいております。	基本は、週3回であるが毎日入浴できる。特殊浴槽も設置しており、また、ゆず湯を用意して入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の心身状態を考慮しながら、利用者様のリズムで、休憩や睡眠をとっていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設側で管理させていただいており、服薬時に職員間で確認し服薬していただく様にしております。また、医師、訪問看護、薬剤師との連携を図ることにより、用法や用量についての理解を促すようにさせていただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の支援の中で、同じ活動ばかりにならないようにさせていただき、買い物や外出といった活動に取り組む事により気分転換を図らせていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿い、ドライブ、買い物、外出、外食等を実施させていただいており、家族の協力の得られる利用者様については、家族の協力の下、外出が行われております。	毎日、近所を散歩し、日常的な外出支援に取り組んでいる。また、車椅子の利用者も買い物やドライブなど行けるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望、本人様の希望により、お小遣い程度のお金を預かり、本人様の希望に沿って使用していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話にての家族とのコミュニケーションをとっていただいている。手紙のやり取りに関しては代読等により、やり取りができるよう、支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは落ち着いた色彩であるため、余計な飾り物をせず、必要最小限に留めさせていただいている。また、照明器具もモダン調であり光も柔らかくしてある。ソファを置くことや、畳のスペースが有る事で、くつろげる環境を提供させていただいている。	共用空間は、温度・湿度を管理し居心地よく過ごせるよう工夫している。また、トイレや洗面所は分かりやすいよう表示するなど配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースで横になられたり、ソファにて利用者様同士で談話されている。座席位置を特定しないことにより、利用者様同士の交流が維持されており、その時々で利用者様に自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む物についても、特に制限は設けていない。本人様が使い慣れた物や思い出の物を持って来ていただいている。	使い慣れたものや写真を持ち込み、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関口は階段、スロープの両方を設置させていただいている。施設内外共にバリアフリー化により、安全面に配慮している。掲示・表示については、必要最小限にさせていただき、利用者様自身で確認できるように支援させていただいている。		